

http://www.chunichi.co.jp/earthquake/

毎月1日は東海地震特集

備える

その61「緊急地震速報スタート」

放送界では、いち早くテレビ・ラジオでの速報放送を決めたNHKに続き、慎重姿勢だった民放テレビ各社も雪崩を打って順次導入するが、民放ラジオ各社は周知不足を理由に未だ放送開始を遅らせた。百貨店や映画館など多くの集客施設は導入に前向きながらも、対応を決めかねている。高速道路では追突事故を招くおそれがある。

（社会部・広瀬和実、赤川肇）

発信者側

東名高速や中央道を管轄する中日本高速道路は、当面、道路上で速報を伝えない。道路上の情報板や路側放送（ハイウェイラジオ）など既存の方法で全通車者に速報を同時通知するのは難しい。「速報を知った人と知らない人がいると、事故を誘発しかねない」とする。ラジオ各局の足並みがそろわないことや、速

認知度 手探り



今ごろ、住民が緊急地震速報を知るのにはテレビを見ていてという場面が多くなりそう。消防庁が運用する全国瞬時警報システム（J-ALERT）を活用して独自に住民に知らせることを考えている市町村もあるが、多くはまだ検討中だ。

世帯に無償貸与する「音声告知器」が危険を知らせてくれる。市が約一万九千セクターが放送するグループ（J-ALERT）を活用して独自に住民に知らせることを考えている市町村もあるが、多くはまだ検討中だ。

市民インフラ構築 恵那市の場合

「音声告知器」全戸配布へ

ルテレビ（CATV）の接続機を兼ねた端末で、二〇〇六年度から二年かけて各家庭に取り付けている。普段は行政情報などを流すが、市がアラートで速報をキャッチする同時にアラウンスで伝える。

市は〇四年十月に六市町村が合併した際、全世帯でCATVを視聴可能にするのを一つの条件としていた。難視聴地域の解消や平等な情報伝達を目的としたが、市民にとって最も重要な情報を伝えるインフラの構築につながった。

市防災対策課は「速報を屋外のスピーカーで流す自治体は多いと思うが、外出が少ないお年寄りには効果が少ないはず」と、家庭内で放送する意義を強調している。（恵那通信局・鈴木智行）

受け手側

意識変え有効活用

緊急地震速報の一般運用が1日、始まった。地震発生直後の初期微動をとらえて、大きな揺れを事前に知らせるという全国緊急地震速報の一般運用が、名古屋市の福和伸夫教授（地震工学）は「オールマイティではないが、今回の運用開始をきっかけに防災意識を高めることが大事」と受け手側の意識改革を求めている。

福和教授は速報の特徴について「震源に近い場所では情報提供が間に合わない。地震の検知から自分の家の安全な空間はどこか、事前のシミュレーションが大切。地震発生直後の避難時間、食卓、居間、寝室など、避難場所を事前に決める。もし丈夫なビルに避難したら、ビル内の一階に避難した方がいい。」

（集客施設、地下街）施設の従業員は指示に従って、明確な指示がなければ、以下のような「心」で対応する必要がある。

（家の中）火を消せる場合は火の始末をするが、火元から離れたビルからの壁、看板、消火しない。ガスは自動遮断される。事前に家員を避難させる。もし丈夫なビルに避難したら、ビル内の一階に避難した方がいい。

（車中）地震発生時は、車を止めて、安全な方法により、上から落下物がないかなど道路状況を確認して道路左側に寄せる。

防災 ボランティアの力

情報提供を通じた災害救援を目指して発足し、八年になった。天野竹行理事長は「多くの人に情報を提供することが大きな力につながる」と力を込める。

NPO愛知ネット

（愛知県安城市）

ネット使い 情報提供



スタッフと打ち合わせをする天野理事長（左）愛知県安城市東栄町で

中間数人と「それなら、少し手伝おうか」とパソコンを使った活動が始まった。

「一番気になるのは家族の安全」と考えるから、「あびるメール」システムを導入。地震発生時に、居場所やけがの有無などを入力して返信すると、あらかじめ設定しておいた登録者家族や所属する組織へ情報が送信される仕組みだ。

「普段は登録者になる」と、二〇〇五年一最大の強みは住民とのつながり。災害時には住民からできる限りの情報を集め、必要とする場所に届けられる存在になった。（安城通信局・宇佐美尚）

仮設族、きずな深く

談話室が和みの場



仮設住宅の談話室に集まり、思い思いの時間を過ごす入居者たち＝石川県穴水町大町で

「みんな、どんな経緯でここに来たのか、話を聞いてほしい。仮設住宅には、きずなが深く、仮設族、みたく」と言った。仮設住宅には、きずなが深く、仮設族、みたく」と言った。仮設住宅には、きずなが深く、仮設族、みたく」と言った。

能登半島 発

能登半島 発

本放送は「速報は特に東海地震のような海溝型地震で有効性が高い。情報そのものが命を救うのに役立つ」と判断した。（広）

「速報を知った人と知らない人がいると、事故を誘発しかねない」とする。ラジオ各局の足並みがそろわないことや、速報を知った人と知らない人がいると、事故を誘発しかねない」とする。ラジオ各局の足並みがそろわないことや、速報を知った人と知らない人がいると、事故を誘発しかねない」とする。